

## 経緯

### (1) 万人のための教育(Education for All: EFA)のための取組

- 1990年9月 万人のための教育世界会議（タイ、ジョムティエン）  
EFAを世界共通目標とすることが決定。
- 2000年4月 世界教育フォーラム（セネガル、ダカール）  
EFA達成の指標となる、2015年までの達成を目指す6つの国際目標（EFAダカール目標）を設定。
- 2000年9月 国連ミレニアムサミット  
採択された国連ミレニアム宣言を基にまとめられたミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）のうち、2つのEFAダカール目標が盛り込まれる。
- 2015年9月 国連持続可能な開発サミット  
持続可能な開発目標（SDGs）を採択。教育分野はSDGsの目標4（SDG4）として明記。
- 2015年11月 教育2030行動枠組に係るハイレベル会合  
ユネスコ総会に併せて開催された同会合において、SDG4を着実に実施するため、ユネスコを主導機関に指名するとともに、教育2030行動枠組を採択。
- 2018年12月 グローバル教育2030会合（GEM）（ユネスコ主催）
- 2019年夏頃 2019年国連ハイレベル政治フォーラム（2019HLPF）  
SDG-教育2030のフォローアップを実施予定。



### (2) 持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）の取組

- 2002年9月 ヨハネスブルクサミット  
我が国の提案により、世界首脳会議実施計画に「ESDの10年」に関する記載が盛り込まれる。
- 2002年12月 国連第57回総会  
2005年から2014年の10年を国連ESDの10年と決議し、ユネスコを主導機関に指名。
- 2014年11月 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議  
愛知県名古屋市及び岡山市で開催。
- 2015年9月 国連持続可能な開発サミット  
ESDはSDGsの目標4の中のターゲット4.7に記載。
- 2015年～2019年 GAP（ESDのためのグローバル・アクション・プログラム）を実施中。
- 2019年秋 第40回ユネスコ総会  
2020年～2030年をSDGsの実現に貢献するためのESD実施のための枠組（ESD for 2030）を審議予定。



2019年1月 **Education for SDGs ユネスコ関連施策パッケージの検討の立ち上げ**

## 第138回教育小委員会（平成31年2月5日開催）での議論のポイント

### 【ビジョン】

- 2030年までの全体像をどのように描くかを検討すべき。
- これまで実施してきたSDGs活動を受け止め、それらの発信方法を熟考する必要あり。
- 外に出す強いメッセージが必要。
- ESDがSDGsに貢献する点が見えにくい。
- SDGs達成には人材育成が大事とずっと訴えていくべき。
- 日本がこれまで積み上げてきた知見を結集して、ESDとSDGsのモデルを作ることも必要。
- 戦略を基に、実施事業（限りある予算の執行）に優先順位をつけるべき。

### 【広報】

- これまでのESD活動（例：成果物・新しい教育手法）がどのように進展・連携してきたかを定量的・定性的に可視化する必要あり。
- SDGターゲット4.7では、日本はアジアの中で進んでいるものの、ESD活動の成果とSDGターゲット4.7との繋がりを外に上手く見せていない。
- 教員が熱心にSDGsに取り組めるように、教育と社会の繋がりを発信する必要あり。
- ESDやSDGsに関わっていない人々（例：地域コミュニティ、保護者）への周知・活用も必要。

### 【ネットワーキング】

- ESDのためのグローバル・アクション・プログラム（GAP）中間評価においても、分野横断的連携の不十分さが指摘されている。この横断的連携を担うのが文科省の役目であり、各分野の取組の掘り起こしが必要。
- 学校等の取組と文科省の施策がどのように繋がっているかが見えにくい。もう少し両者が繋がってもよいのでは。
- プラットフォームにより、大学や研究機関との繋がりも厚くしてほしい。



教育小委員会において引き続き検討予定

## 【参考】日本ユネスコ国内委員会（国際統括官付）の ユネスコ関連施策のパッケージ（案）

### （1）SDGターゲット4.7（ESDの推進関連）に係る施策



#### SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業

小・中・高・大学を初め国内の教育現場におけるSDGs達成の担い手を育む多様な教育活動(ESD)を支援し、担い手に必要な資質・能力の向上を図る。

- SDGs達成の視点を組み込んだカリキュラム、教材、地域プロジェクト等の開発や教育実践。
- SDGs達成の中核的な担い手となる教師の資質・能力の向上。

#### ESD/SDGsコンソーシアム

これまで培ってきたコンソーシアム事業（多様なESD/SDGs関係団体と協力し、地域一帯で取り組むESD活動を支援）の成果を継続する。

### （2）ユネスコの教育、科学、文化等の活動との連携を通じたSDGs全体に係る施策

#### ユネスコへの信託基金

GAP後継枠組の周知のための国際会議の開催、ユネスコ/日本ESD賞の実施

アジア太平洋地域におけるSDG-教育2030の進捗状況等を議論するアジア太平洋教育2030会合の開催

SDGs達成のための共通課題解決への支援（教育を通じた暴力的過激主義防止のワークショップ開催等）

#### 日本/ユネスコパートナーシップ事業

ユネスコ事業の一層の推進に向け、国内のユネスコ活動に関係のある機関と協力し、我が国におけるユネスコ活動の普及・振興のために、ユネスコにおける喫緊かつ重要施策への貢献やユネスコ活動の基盤構成のための事業を実施。

- SDGs達成のためのユース世代の活動の推進
- ユネスコスクールへの支援・事業の推進



#### SDGs推進に貢献するユネスコ活動の助成

ユネスコとの連携により行う、大学等の研究機関やNPO法人等の民間団体等によるユネスコ活動に協力し、SDGsの17のゴール達成を通じたユネスコの理念の実現に資する事業を実施。

### （3）SDGsの目標17（パートナーシップによる目標達成）に係る施策

#### SDGsステークホルダーとの連携

ユニツイン/ユネスコチェアによるSDGsに関する研究推進

RCEやESD活動支援センター、ASPUnivNet等と連携した取組

国連大学、企業、ESD学会等との連携



### （4）SDGsの達成を担う次世代の教育支援のための学校、企業、自治体等が連携した施策

#### SDGs人材の育成

地域におけるSDGsの達成・地域の持続性の向上を担う若手人材の育成・輩出を目的とした、学校と企業等の地域のプレーヤーとの連携によるPBL(Project Based Learning)型学習プロジェクトを試験的に実施。

高校生を主な対象とする総合的な探求の時間における実践的なSDGs学習のための教材を官民連携プロジェクトを通じて開発。



ユネスコ活動によるSDGs達成への取り組み等を通じた平和で持続可能な社会の構築